本学から巣立った医療技術者活躍中！

「保健医療技術学部卒業生」大いに語る

本学の保健医療技術学部が創設されてから、今年で7年目。現在、1期生（2010年卒業）と2期生（2011年卒業）が、臨床検査技師、理学療法士、作業療法士としてそれぞれの分野で活躍中です。今回は、以下の方々に現在のお仕事や、学生時代の様子などについて伺いました。

昭和大学病院の伊藤亜由美さん（臨床検査学科1期）、医療法人社団 苑田会・苑田第二病院の西田直弥さん（理学療法学科1期）、東京都リハビリテーション病院の廣石温子さん（作業療法学科1期）、2期代表として、医療法人研精会・山田病院の滝吉翔さん（作業療法学科2期）。

3学科の特徴を表す仕事内容

――現在のお仕事内容を。

伊藤　昭和大学病院で、臨床検査技師として働いています。入職した時は心電図や生理機能担当でしたが、昨年5月に超音波センターに異動し、現在はエコーを担当しています。私は普段、患者さんと接する生体系部門を担当していますので、採血等も行います。当直勤務の時は、採血管や試験管の処理をする検体系の業務もこなしています。実は今日は当直明けです。

西田　僕は足立区の苑田第二病院で働いています。患者層は高齢者が多いため、慢性期といって寝たきりの方もいらっしゃいます。脳卒中や心疾患、腎臓透析などで家には帰れない方を始め、回復期で家に帰れる方、交通事故で骨折して、手術を受けた方など様々です。僕はそういった方々のリハビリを担当しています。

廣石　東京都リハビリテーション病院で、身障領域の作業療法士として勤務しています。私は回復期の病棟担当ですので、脳卒中や頭部外傷の方々を対象に、自宅へ帰るための支援を行っています。

滝吉　僕は医療法人社団研精会の山田病院で、精神科の作業療法士として働いています。主に統合失調症の方を担当していますが、中には躁うつや境界性人格障害の方もいらっしゃり、その急性期・慢性期と認知症の方も担当しています。作業療法では、レクリエーション、園芸、書道、ダンスなどのプログラムを通して、状態の維持や改善を図っています。当院の特徴は、退院促進に力を入れていますので、当院の持つアパートでの宿泊訓練や、お給料をいただきながら印刷所で仕事の訓練をする方もいらっしゃいます。

様々なきっかけが進路を決定

――この分野を志したきっかけを。

伊藤　私は高校も文京学院なのですが、高校1年から2年生になる時にコース分けがあり、数学が好きだったので理系に進みました。両親からも国家資格取得の重要性を聞かされていたので、自分の性格も考えあわせ、臨床検査技師を志して文京学院の臨床検査学科に内部進学しました。

西田　小学校から野球をやっていたのですが、中学校の時に肘を壊してしまい、野球部の顧問の知り合いの理学療法士にリハビリを一緒に考えていただきました。そのお陰でまた野球に復帰できました。その時は職種が判らなかったのですが、高校で進路を決める時、「あのかっこいい人は何だったんだろう?」と調べたところ、理学療法士という仕事を知りました。

廣石　本来は養護学校の教員になりたかったのですが、父が子どものころの病気が原因で、左半分上肢がマヒしていて動かないということを高校生になった時に、初めて知りました。それがきっかけで、障害を持った方がどのように社会生活を送っているのかを知り、その方々を支援したいと思うようになりました。

滝吉　僕は高校生のころから「医療に進む」とずっと決めていました。一番影響を受けたのは、片マヒになってしまった祖母でした。リハビリの様子が見たくて病院に通っているうちに、先生からの声掛けもあり、自然に手伝うようになりました。そのころにはリハビリにとても興味を持ち、この道に進もうと思いました。

1年次からの基礎が大事

――学生時代の様子を。

伊藤　臨床は、1年生の時だけがふじみ野で、2年生からは本郷ですから、作業・理学の皆さんとはほとんど交流がありませんでした。でも、臨床内で友人に恵まれて、とても楽しい学生生活でした。1期生ということもあり、先生方からはいつも発破をかけられていました。3年生からは本当に勉強一筋で「血を吐く」という言葉が当てはまるほど勉強しました。

西田　他学科の人たちとは、生理学実習などの基礎分野で一緒にレポートをまとめたり、グループワークを沢山しました。今、チーム医療の時代ですから、病院勤務の中でもひとりの患者さんに対して各担当者が意見交換をしますので、学生時代に学んだグループワークが生きています。これからも、担当者間で意見や情報を共有し合って、病院全体でどうするかを考えていただいて、この職種を広く知っていただき、一人でも多くの文京学院出身者に臨床検査技師として活躍してもらいたいです。

プロとして信頼される医療技術者に

――今後の抱負を。

伊藤　臨床検査技師として認められる存在になりたいと思っています。当院は、エコー、検体系、輸血などそれぞれ2級試験を推進していますので、私も目指しています。文京学院大学の臨床検査学科は有名ですが、医療従事者として臨床検査技師は隠れた存在ですので、「遊び」も大事にしつつ、メリハリを付けながら勉強も頑張ってほしいです。

西田　在学中から文京学院大学の先生方は凄いと思っていましたが、社会に出るとそれが実感として解ります。僕が目指すのは母校の先生方です。追いつけるように頑張ります！

廣石　日々努力して、技術と知識を磨き、先輩にもアドバイスをいただいたように、患者さんとの距離を上手に取り、プロとして信頼される作業療法士」になれるように頑張ります！

滝吉　運動会・盆踊り・文化祭など行事が目白押しなので、1年を通しての業務に早く慣れたいです。それを理解していれば、自分が何をすれば良いかが判り安心ですし、そのゆとりを患者さんに向けたいです。集団にアプローチしながも、一人ひとりの患者さんを見られるような力を付けることが、今一番の目標です。

★（平成23年8月18日インタビュー分を紙面の都合で1月号に掲載）

6面掲載の続き

日々奮闘中の（左から）廣石さん、西田さん、伊藤さん、滝吉さん

人間関係を築く難しさと楽しさ

――苦労されている点や醍醐味を。

伊藤　80人いる臨床検査技師との人間関係の構築に努めています。1年目から採血も担当していますが、大きな病院ですから採血数が多く、「働いているな」と実感します（笑）。私の検査データがドクターに行き、それが治療判断の基になりますので、責任は重いですが、医療の土台部分を担っているという意識で対応しています。

西田　僕も人間関係には特に気をつけています。人間が人間を見るのですから、未知の部分が多く、教科書どおりにはなりません。個々の患者さんにとってどうすることが一番良いのかを、自分の感覚や頭で考えながら対峙することが、この仕事の醍醐味です。

廣石　1年目はひたすら患者さんと仲良くなり、関係を築こうとしていましたが、先輩からは「プロとして信頼されなければ意味がない」とアドバイスがありました。毎日試行錯誤を繰り返しながら患者さんと接していますが、患者さんの状態が日を追うごとに良くなっていく様子を見ると、とてもうれしいです。

滝吉　実習ではひとりの患者さんを担当すれば良かったのですが、就職後はリーダーのもとで20数人もの患者さんを相手にすることになり、患者さん一人ひとりを見られればもっと治療効果が出ると考え、悔しい思いがあります。精神疾患の患者さんですから波があり、その日のアプローチが良くても、次回は駄目という辛さはあります。一番うれしいのは、患者さんが僕の名前を覚えて話しかけてくださること。看護師長、主任が作業療法にとても積極的で、「作業療法後の患者さんは笑顔になる」と言ってくださることが遣り甲斐につながります。

指導者の熱心さが学生を後押し

――国家試験や就活を振り返ってひとこと。

伊藤　私は国家試験の勉強中に2度ほど大きな壁にぶつかりました。臨床検査学科では、模試の結果がいつも貼り出されるのですが、合格点に達しなかった時は落ち込みましたね。先生方の励ましや支えがあったので、自分を信じて立ち上がるしかなかったのですが、その自信が今の自分へとつながっていると思います。勉強スタイルを早めに決めて、国家試験に取り組むことをお勧めします。

西田　国家試験の前には、先生方が時には合宿、時には朝から晩まで一緒に学生に付き合って、問題まで作ってくださったり、本当によく面倒を見てくださいました。先生方の熱心さが、僕たちの合格率を上げてくださったのだと思います。独り暮らしで、大学に行くのが好きだったので、朝からずっと先生と一緒で、仲良くしていただきました。そういったこともあり就職に関しては、先生が僕の特性を考えていくつかの病院を勧めてくださり、今の病院に決まりました。この場をお借りしてお礼を申し上げます！

廣石　グループワークの多さは利点ですが、方向性の違いから衝突することもありました。国家試験前は様々なプレッシャーがあり、本当につらい半年間でしたが、最終的にグループ全員が国家試験に受かりましたので良かったです。就活は伊豆の施設にスムーズに決まりましたが、閉鎖することになってしまい、文京学院の先生方のお力をいただいて、現在があります。

滝吉　4年生で実習が終わるのが8月で、すぐに就活が始まり、ゼミの発表や提出物もあり、合間をぬってのリハビリの勉強がありましたから、本当に大変でした。就活は最初の1つが落ちてしまい、それで気が楽になりました。受け身ではなく、「僕が決める」という考え方で就活しました。

一生懸命取り組めば道は開ける

――後輩にアドバイスを。

伊藤　やって後悔するのと、やらないで後悔するのとでは内容が全く違うので、勉強は勿論ですが、プライベイトでも一生懸命努力してほしいです。私たちも精一杯の努力をして今があるので、皆さんも自分を信じて努力して下さい。結果は必ずついてきます。

西田　基本的に、自分が一番好きなことを中心にやると良いと思います。職場でも、自分が好きなことを率先してやると効率的ですし、周囲の雰囲気も良くできると思います。勿論、苦手なことであっても、やらなければいけない時は一生懸命立ち向（7面に続く）